



「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

東大阪市立縄手南中学校

校長 日比野功

教育活動の重点キーワード

「縄南道」の形成、「心・技・体」の研鑽

2016 謹賀「縄南道」、さらなる「心・技・体」の研鑽を！

新年あけましておめでとうございます。2016年が始まりました。新しい年を迎え、縄手南中学校は「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」をモットーに、「心・技・体」の研鑽のもと日本一を目指し、更なる「縄南道」の進化をと考えています。縄手南中学校では、「人格形成」を教育活動の柱としていますが、新しい年のスタートである節目を、今もう一度この「人格形成」についての意識を高める機会にして欲しいと思っています。「縄南道」の基本的な考え方は、ある一定の時間を使い、ある一定のレベルの練習をすれば、ある一定の結果を得ることはできますが、それ以上の高いレベルでは、「量」による練習だけではなく、練習の「質」が大きく左右し、その「質」には個々の選手の「人格」が大きく影響するということです。高いレベルに挑戦すればするほど、個々の選手の「人格」が問われ、苦しくても劣勢にあっても歯をくいしばって耐えることや、ていねいにひたむきにプレーを継続させることが結果を左右させることとなり、個々の「人格」が伴わない「雑なプレー」は、それまでの努力の過程を一瞬にして「敗因」としてしまうことがあるということです。「縄南道」では勝つときには必ず「勝因」が、敗れるときには必ず「敗因」があり、「勝因」とは「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」であり、「敗因」とは「いい加減」「適当」「だいたい」であるとしています。苦しいから、辛いからといって「雑」になったり、「言い訳」をするのではなく、歯をくいしばって一生懸命に、ていねいに、ひたむきに実行する力をつけて欲しいと思っています。そして「技」だけを磨くのではなく、「心・技・体」の研鑽があってこそ「人格形成」が成されるものだと考えています。「技」を磨くことは当然大切なことの1つではありますが、「技」を磨く過程には個々のたゆまぬ努力が必ずあり、継続させるためには強靱な体力づくりも当然必要です。そのためには自分に負けない精神力も大切ですが、「研鑽」とはそのようなものだけではありません。

君たちの学校生活を例として考えてみると、勉強をしたり、部活動をしたり、行事を行ったりする中で、個々の「技」や「能力」を高めることは必要ですが、毎日、君たちが学校生活を普通に送るために家の方々が一生懸命に働いてくださって、君たちの毎日のご飯やお弁当を作ってくさってたり、洗濯をしてくさってたり、また教室やグラウンド、体育館といった場所を提供してもらって、教科書や机や道具が当たり前のように与えられ、PTAや地域の方々を含め多くの方々が応援や協力をしてくださったりしていることを忘れてはいけません。そのようなことを考え、それらに誠実に応えるためには、少くくらしんどくても、少くくらいうまくいかないことがあっても、時には自分の気にいらぬことが起こっても、すぐに投げやりになったり、いい加減にすませてしまったり、ふてくされて雑な態度をとったりするのではなく、一生懸命に、ていねいに、そしてひたむきに歯をくいしばって頑張ることは絶対に欠かしてはならないことです。「こんにちは。」「お願いします。」「ありがとうございました。」「といった挨拶をとっていても、言葉だけでそれを実行

するのではなく、いろいろな気持ちや思い、感謝の気持ちも含めて実行できることが本当の「あいさつ」です。本校のアドバイザースタッフの旭堂南春さんの講談や、神代千穂さんのダンスの世界でも、ただ話をしたりダンスを踊ったりするだけでなく、その中に気持ちや心がこもっていないと人を感動させることはできないと話されていました。

よく言われることですが、「二流は失敗を人のせいにするが、一流は自分のせいだと振り返る」という教えがあります。二流の選手が過ごす環境には二流の選手に似合っている言葉や様子や空気があり、一流の選手が過ごす環境には、流石と思わせる当然の言葉や様子や空気があります。縄手南中学校においても一流の選手が過ごし、一流の選手が育つ空気を「縄南道」のもとづくりあげ、日本一を目指したいと思っています。

昔のプロ野球選手で鉄腕と呼ばれた稲尾投手という方がおられます。稲尾投手は西鉄ライオンズというチームのエースで、日本シリーズでチームが3連敗の後、読売ジャイアンツを相手に4連投で4連勝という離れ業を成し遂げ、「神様、仏様、稲尾様」と当時取り上げられた名選手です。この稲尾投手が公式戦で連勝記録を打ち立てていた時に、当時ライトを守っていた花井という選手がエラーをして稲尾投手の連勝記録がストップしたことがありました。試合が終わった直後、マスコミをはじめ、チームが移動するバスに乗り込んだ時も、周りの目は花井選手へのバッシングの嵐だったそうです。花井選手が責任を感じて稲尾投手に「すまない。」と謝った時に、稲尾投手は「あんたが打ってくれて勝った試合もいくつもあるやないか。あんたが捕ってくれた打球もいっぱいあるやないか。」と言われ、涙が出てきたそうです。後々、野球解説者となった花井選手がラジオ実況の中でこの話をされ、「稲尾が一流なのは日本シリーズでの離れ業やない。ワシに言ってくれたあの言葉や、あの気持ちや、あの思いや。」と言っておられていたのを覚えています。

「縄南道」における「人格形成」においても、当然自分も頑張り、そして自分を支えてもらっている多くの人々や環境に感謝し、そして何かの縁で共に過ごす仲間たちにも感謝するといった気持ちを持ち続け前進して行って欲しいと思っています。「当たり前のことを当たり前にする」ことは日本一へのチャレンジとして必要不可欠なことです。そしてこの「当たり前」のレベルを高めていかなければなりません。「意識」の改革は「行動」の改革を生み、「行動」の改革は「習慣」の改革を生みます。そして「習慣」の改革は必然的に「結果」を生み出します。「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」を意識し実行し、そしてそれを身につけ将来の夢の実現へと繋げていきましょう。2016年も日本一を本気で目指して進みましょう。

12月16日(水)、ロサンゼルス五輪女子マラソン代表の増田明美さんのお話をお聞きしました。



ロサンゼルス五輪女子マラソン日本代表の増田明美さん

12月16日(水)、本校体育館で「縄南道」講演の一環としてロサンゼルス五輪女子マラソン代表の増田明美氏をお招きし、全校生徒対象に講演していただきました。ライバルに負けずに練習が終わってから毎日3000回の腹筋を続けたご自身のご努力や、期待に応えることができず自分自身の気持ちに負けてしまった挫折の経験、そして復帰のきっかけとなった市民ランナーからかけられた心温かい言葉、周りの皆さんの応援に対する感謝の気持ちなど、「縄南道」の糧となる多くのことを伝えて頂く時間となりました。「縄手南中学校での生徒の皆さんの様子がとても素晴らしかったとお伝え下さい。」と話されていました。

クラブ等の主な記録

陸上 第49回東大阪市総合体育大会男子駅伝の部2区 2位 三木太晴(2年)7'25"

女子バスケット 第20回東大阪市市民体育大会少年女子之部Bブロック 優勝